

ビートグランプリCHILL/AMBIENT2020の大会結果が「SUPER DOMMUNE」にて、発表されることが決定！！



S/U/P/E/R
DOMMUNE



DJ機材や作曲機材を販売するOTAIRECORDが毎年主催しているトラックメイカー、作曲家の大会「ビートグランプリ」。年々盛り上がりを見せる一方で、2020年は新型コロナウイルスの影響を受け、やむなくオンラインでの開催となった。

例年はアグレッシブなビートをぶつけ合うビートバトルの方式をとっているが、2020年の世相を考え、CHILLOUT、AMBIENTにジャンルを絞るオンラインでのコンテスト方式にて大会を開催した。

2020年8月頃から予選が開催され、全国から約250人ものアーティストから応募があり、その中から厳選された14名のファイナリストたちが、インターネットによる一般投票、審査員からの評価を合算し、順位が決定する。

大会順位の発表日2020年12月17日を「CHILL OUT DAY」と題し、私たちは2020年のCHILLOUT/AMBIENTをみんなで考えるべくARTMOVIEを制作、その作品を今回SUPER DOMMUNEにて発表する。

ARTMOVIE内では、8位から1位までの楽曲を順々に流しながら結果発表を行う。結果発表に花を添えるのは福森 ちえみをはじめとした4名のコンテンポラリーダンサー。

また、CHILLOUTやAMBIENTを様々な視点で表現したエキシビジョンLIVEも合わせて収録されている。

エキシビジョンLIVEは4人のアーティストが出演。

倍音成分をあわせもった透き通るようなボイスのシンガーソングライター「南寿 あさ子」。

溢れんばかりの情念と繊細な表現を同居させたクラシックピアニスト「菊地 沙織」。

楽器を手にした瞬間に稀有な集中力を発揮し世界を演出するサキソフォニスト「中園 亜美」。

そして、神と対峙するように彼独自の世界観を作り上げる不世出なDJ、「HIROSHI WATANABE aka KAITO」。

SUPER DOMMUNEの放送内では、ビートグランプリの過去のファイナリストたちと共に今までの大会の歴史の振り返りや、今回制作したARTMOVIEに参加したアーティストにも出演いただき、2020年に相応いCHILLやAMBIENTについてトークを行う。

放送終盤には、HIROSHI WATANABE aka KAITO (Transmat / Kompakt)のDJも予定されており、CHILL/AMBIENTに包まれた特別な一日となるだろう。

情報解禁：2020年12月8日（火）16：00
詳細はこちら：<http://beatgp.com/chilloutday/>

■ 番組詳細

S/U/P/E/R
DOMMUNE



配信先 :
SUPER DOMMUNE
<https://www.dommune.com/>

配信日時 :
2020.12.17 (木)
20時~24時

番組出演者 :
<トーク>
ようすけ管理人 (Organizer | OTAIRECORD)
kakinone (Director | OTAIRECORD)
HIROSHI WATANABE aka KAITO (Transmat / Kompakt)
南壽 あさ子
菊地 沙織
中園 亜美
QUNIMUNE (ビートグランプリ2017 Champion)
FKD (ビートグランプリ2019 Finalist)
and more

<DJ>
HIROSHI WATANABE aka KAITO (Transmat / Kompakt)

情報解禁 : 2020年12月8日 (火) 16 : 00
詳細はこちら : <http://beatgp.com/chilloutday/>

■大会概要



OTAIRECORD presents BEAT GRANDPRIX CHILL/AMBIENT 2020 supported by TuneCore JAPAN
(ビートグランプリ・チルアンビエント)

ビートグランプリ (BGP・Beat Grand Prix)とは、日本最大級のトラックメイク、作曲、ビートメイクの大会。

例年はアグレッシブなビートをぶつけ合うビートバトル的方式をとっているが、2020年の世相を考え、CHILLOUT、AMBIENTにジャンルを絞りオンラインでのコンテスト方式にて大会を開催した。

まずは、オンラインにより予選エントリーを受付。予選応募者の中から14名のファイナリストを選出。ファイナリストは、予選とは異なる楽曲を新たに提出。その楽曲について、オンラインによる一般投票、審査員たちによる審査結果の合算により、順位が決定する。大会順位は、12月17日SUPER DOMMUNEにて発表される。

■大会審査員


OTAIRECORD presents
ビートグランプリ™

Chill Ambient

supported by **tuneCORE**
JAPAN

審査員発表
※敬称略・アルファベット順

 荒木 正比呂	 荒田 洸 (WONK)	 原 摩利彦	 Hiroshi Watanabe aka Kaito
 Kaoru Inoue (Seeds And Ground Chari Chari)	 南壽 あさ子	 O.N.O (THA BLUE HERB)	 Qunimune

荒木 正比呂 / 荒田 洸 (WONK) / 原 摩利彦 / HIROSHI WATANABE aka KAITO /
Kaoru Inoue(Seeds And Ground | Chari Chari) / 南壽 あさ子 / O.N.O(THA BLUE HERB) /
Qunimune

■プロデューサー ようすけ管理人からのコメント



Organizer

ようすけ管理人

トラックメイカーは、ラッパー、シンガーやDJ などと違って日陰の存在だ。彼らがスポットライトを浴びている時、トラックメイカーは、スタジオにこもってひたすら作業をしている。そんなトラックメイカーたちにスポットを当てるべく始まった日本最大級のトラックメイクのコンテストBEAT GRANDPRIX。

5回目の今年は新型コロナウイルスのあおりを受けてやむなくオンラインでの開催となった。新型コロナウイルスに対してどう対峙していくのか？これが今年のBEAT GRANDPRIX のテーマだった。

BEAT GRANDPRIX は今までアグレッシブなビートを戦わせるビートバトルの方式をとってきた。世界的に見ても新型コロナウイルスによって多くの死者や患者が出ている状況の中で、開催自体も危ぶまれたのは事実だ。

しかし、この状況でも、音楽の可能性を信じて真正面から対峙していく、それが大会に課せられた役割なのではないか？と思った。次々と中止されていくリアルな音楽イベント。

それに対してオンラインという手段を使ってどういった方法が有効なんだろうと考えた。その結果たどり着いたのが「2020年のCHILLOUT/AMBIENT を考える」というスタンスだ。

世の中をHEALすべく、「世界でも稀にみる美しく穏やかな戦い」をやろう。FINALの結果とともに、2020 年のCHILLOUT/AMBIENTをみんなで考えるARTMOVIE を作る。

こうして完成したのがART MOVIE「BEAT GRANDPRIX 2020 CHILL/AMBIENT」だ。日本全国250 人ものエントリーの中からFINALIST14 人が選ばれ、インターネットによる投票、審査員の評価を合算し、今年のWINNER を決めるというこの大会。ART MOVIE の中で、8位から優勝者までのトラックをゆっくりかけ発表していくスタイルをとった。予選では様々な解釈のCHILLやAMBIENTが表現された。まさに穏やかなる激戦だった。その中で残った14名。

世界を蝕んだコロナウイルスに対して、2020年のCHILLOUT/AMBIENT を考えるべくエキシビジョンLIVE も合わせて開催した。エキシビジョンLIVEは4人のアーティストにオファーした。

倍音成分をあわせもった透き通るようなボイスのシンガーソングライター南壽あさ子。溢れんばかりの情念と繊細な表現を同居させたクラシックピアニスト菊地沙織。楽器を手にした瞬間に稀有な集中力を発揮し世界を演出するサキソフォニスト中園亜美。そして、神と対峙するように彼独自の世界観を作り上げる不世出なDJ、HIROSHI WATANABE aka KAITO。この4 人のライブの後にFINALの結果が発表される。花を添えるのはCHIEMI FUKUMORIをはじめとする4人のコンテンポラリーダンサー。様々なスタンスを持つアーティストたちがそれぞれの感性とキャリアで2020年のCHILL/AMBIENTを表現する。そして、その解釈を背負った上で、今年の8人のFINALISTの楽曲が順番に流れる。

コロナウイルスにより蝕まれ悲しみに包まれた世界をHEALする特別な一日。2020年冬極東の地、日本で行われた。

傷ついたら、焦ることはなくまず気持ちを整える。決して焦る必要はない。今トラックメイカーたちにできること。ミュージシャンにできる表現の可能性を形に残したアートムービーがここに完成した。

「世界でも稀に見る美しき戦い」を感じてほしい。

あなたも是非考えてみてほしい。今何が必要なのかを。音楽はいつの時代も形を変えて生き残っていくのだ。

ART MOVIE「BEAT GRANDPRIX 2020 CHILL/AMBIENT」

■ Special Art Movie出演者

Special Art Movie



HIROSHI WATANABE
aka KAITO

“CHILL OUT DAY”



福森 ちえみ
(演出・振付・Dance)



永田 桃子
(Dance)



織田 駿
(Dance)



岡村 俊也
(Dance)



南壽 あさ子
(Singer - Songwriter)



菊地 沙織
(Piano)



中園 亜美 × 森田 真奈美
(Saxophone × Piano)

大会結果発表プレゼンター

■ HIROSHI WATANABE aka KAITO



ドイツ最大のエレクトロニック・レーベルKompaktのアーティストとしてKaito名義で4枚のオリジナルアルバム、更にそれぞれ対になるビートレス・アルバムをリリースし、繊細かつ美しい旋律により幅広い音楽ファンに受け入れられている。

ギリシャのKlik Recordsからは本名のHIROSHI WATANABE名義でも2枚のアルバムを残している。

2016年にはテクノ史に偉大な軌跡を刻んできたデトロイトのレーベルTransmatより『Multiverse』を発表。

主宰Derrick Mayの審美眼により極端に純度の高い楽曲のみがナンバリングされるため、

近年はリリースそのものが限定的になっている中での出来事。

さながら宇宙に燦然と煌めく銀河のようなサウンドが躍動する作品となっている。

日本人として前人未到の地へ歩みを進める稀代の音楽家と言えるだろう。

■ 福森 ちえみ（演出・振付・Dance）



振付家、演出家。ダンスカンパニー“PlaTEdge”主宰。

欧州にてダンスアーティストとして活動する傍ら地元愛知県でのダンス育成事業にも関わる。

CM、ミュージックビデオへの振付多数。文化庁委託事業として教育機関へのアウトリーチも行う。

最近では欧州以外にも中南米、中東にも活動の幅を広げている。

■ 永田 桃子 (Dance)



10歳より新体操をはじめ。多くの好成績を残すが、競技性より表現の分野に魅力を感じ、筑波大学体育専門学群入学後、舞踊へと転向。バレエ、モダン、ジャズなど多様なダンスに触れる。
20歳より梅田宏明氏に師事、SomaticField Projectのメンバーとして多くの作品に出演。
近年では舞台をはじめCMやMV、写真作品など幅広く活動しており、ダンスに限らず身体を媒体とした表現全般に興味を持っている。

■ 織田 駿 (Dance)



安城市出身の24歳。
高校までは、ソフトボール・硬式野球に取り組む。中日本選手権大会等で表彰経験あり。
20歳の頃に、ロックダンスを始める。ポップ、ジャズなどのジャンルにも取り組む。
21歳で、出演した「ひとのけしき-OKAZAKI-」にて、コンテンポラリーダンスの魅力を体感し、特にダンスに力を入れて、取り組み始めるきっかけとなった。
現在は、至学館大学院に在学し、同校の創作ダンス部に所属し活動している。

■岡村 俊也 (Dance)



桃花台出身。名古屋市在住。40歳。

18歳の時、ポスティングされたチラシがキッカケでダンスを始める。

以降、ストリートからコンテンポラリーまで幅広く経験。2018年に自主公演を行い演出家としても活動する。

モットーは、自然な位置の重心。斜め上の発想。

普段は普通のサラリーマン

エキシビジョンLIVE

■南壽 あさ子 (Singer-Songwriter)



南壽 あさ子 (nasu asaco)
1989.3.6生まれ 魚座 A型

透明感あふれる唄声を持ち、懐かしい情景や忘れかけていたものを思い出す不思議な魅力を備えるピアノの弾き唄い。

凛とした声の中に温かさを併せ持つ唯一無二の声が支持され、これまでに積水ハウス・シャーマゾンのTVCM「積水ハウスの歌」歌唱、東京ガスの企業CM「エネルギーのうた」制作・歌唱、アステラス製薬TVCMナレーション、かんぽ生命webアニメ音楽と語り、キャノンマーケティングジャパンラジオCMナレーション、カルピスの健康通販「アレルケア」TVCMナレーション、TOKYO FM局報「オキシトシン」「呼吸のおまもり」ナレーションと楽曲制作・歌唱など、数々の企業CMの声に選ばれている。

2012年「フランネル」でCDデビュー、翌年にはトイズファクトリーからメジャーデビュー。
2016年にヤマハミュージックコミュニケーションズへ移籍。
これまでに47都道府県ツアーを2度敢行。台湾でもCDデビューをしている。
2019年にはフジロックフェスティバル初出演、ニューヨーク・カーネギーホール出演を果たす。
秋にはNHK「みんなのうた」に書き下ろした「鉄塔」が放送、その着眼点とポップな曲調が話題となる。

10月に発売したニュー・アルバム『Neutral』は日米両プロデュース作品。
グラミー賞を13回受賞しているエンジニア、ラファ・サーディナのプロデュースによるA面（表題曲「すみれになって」ではハンガリー・ブダペスト管弦楽団総勢51名とのレコーディングを行う）と、元はっぴいえんどの鈴木茂との共同プロデュースによるB面の豪華な仕上がり。

スケーター株式会社のお弁当箱TVCMに楽曲「おかず会議」を書き下ろし、2020年4月～放送中。
今夏公開となる映画「おかあさんの被爆ピアノ」では主題歌を担当、被爆ピアノの所有者・井原千恵子役として出演もしている。

■菊地 沙織 (Piano)



菊地沙織 piano

ソリスト、アンサンブルピアニストとして幅広く活動する。
仙台市出身。武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業のち同大学大学院修了。
2007年よりフランスに渡り、エリック・ベルショ氏のもとパリ・エコールノルマル音楽院にて最高学年演奏家課程修了、
またラヴァルシュヴルーズ音楽院にて室内楽を首席修了する。パリ市内にてソロリサイタル、
室内楽コンサートを行い好評を博す。

2009年に帰国後は東京を拠点とし、ソリスト、アンサンブルピアニストとして本格的に活動を開始する。
ソリストとしては、ブラショフフィルハーモニー、ポーランド・シレジアフィルなど海外オーケストラとの共演をはじめ、
日本のみならず、スイス、オマーン、ルーマニアなど海外においてもコンサートに多数出演する。

またアンサンブルピアニストとして、財団法人サントリーホール・オペラアカデミーに在籍し、
ジュゼッペ・サッパティーニ氏のもと研鑽を積む。声楽、弦楽器、管楽器との共演をメインとする他、
都内合唱団の常任ピアニストをするなど合唱・オペラの分野のレパートリーも幅広く持っている。
音楽之友社「桜色」はじめ、学校教科書のCD録音にも携わる。
ホテルでのコンサートイベント、客船“ぱしふいっくびいなす”のエンターテイナーとして乗船しコンサートを行うなど、
その活動は多岐に渡る。

■中園 亜美 × 森田 真奈美 (Saxophone × Piano)



中園 亜美

1986年鹿児島市出身、福岡第一高等学校音楽科卒業。洗足学園音楽大学Jazz科からBerklee音楽大学へ編入。サックスをWalter Beasleyらに師事。

2009年卒業後、NewYorkを拠点にアメリカ、ヨーロッパで サポートミュージシャンとして活動。

2014年より東京に拠点を移し、ソロとしての活動を本格的にスタートさせる。

2015年10月サウンドプロデューサーに安部潤を迎えVEGAミュージックエンターテイメントよりアルバム「Make It Happen!」を発売。

タイのHitman Jazzからも同時リリースを行い、同年バンコクやチェンマイとジャズフェスへも参加する。

2016年8月には世界配信シングル「She's Home」と「World Connection」をリリース。

2017年4月米・ワシントンDCにある老舗ジャズクラブBlues Alleyでの単独ライブを成功させる。

2018年4月にスペースシャワーミュージックよりセカンドアルバム「The Real」をリリース。

2019年には倉木麻衣20周年記念ホールツアーに参加。

クラシックのバックグラウンドと本場アメリカNYで磨いたセンスの二つを持ち合わせソプラノサックスをメインとした次世代を担うサックスプレイヤーの1人として日本のみならず世界中で活動中。

森田 真奈美

1984年埼玉県生まれ。

4歳よりクラシックピアノを始めるが、中学生のときにジャズと出会い、ミシェル・カミロ、ミシェル・ペトルチアーニ、バット・メセニー、小曽根真などから影響を受ける。

上智大学外国語学部英語学科入学後、2005年に米国バークリー音楽院に留学。

在学中から欧米のコンペで数々の賞を獲得し、エスペランサ・ス波尔ディングやホーザ・パッソスと共演を果たす。

同校2009年卒業後、自主制作アルバム「COLORS」が、大手レコード店で記録的なセールスとなる。

2011年～2016年までのテレビ朝日系「報道ステーション」テーマ曲「I am」、

ラジオニッポン放送「おしゃべりらぼ～しあわせSocial Design」テーマ曲、

ラジオドラマ、コマーシャル等のサウンドトラックなどを手がける。

2016年より自身のジャズのルーツでもあるビッグバンドを率いてのコンサートも行っている。